

センター行事メモ

●海外研究者招聘

年月日	招聘者	招聘目的
1995.7.5～ 1995.9.27	イタリア国立南部研究所 Dr. Aldo Bonasera	QMD 模型を用いた低エネルギー重イオン反応の解析
1995.9.19～ 1995.10.27	ミュンヘン工科大学 Dr. Wilfried Wurth	放射光を用いた共鳴オージェ過程に関する討論
1995.10.10～ 1995.10.24	ローレンスバークレー国立研究所 Dr. Swapan Chattopadhyay	ビーム冷却法及び高速診断法の検証
1995.12.19～ 1995.12.20	ルーバンカトリック大学 Prof. Bernald Tilquin	生体におけるトンネル反応の検討

●基礎科学セミナー（第41～46回）

年月日	開催内容
1995.10.12	放射光による表面吸着系の内核励起状態のダイナミクス
1995.10.25～10.26	生体物質中性子回折
1995.10.30	金属中の格子欠陥における陽電子消滅寿命
1995.11.20	超伝導放射線検出器の開発
1995.12.18～12.19	ハドロン多体系のシミュレーション
1995.12.21	荷電粒子のコヒーレント制御

編集後記



1994年に創刊した基礎科学ノートもこの号で3年目を迎えます。ノートの欄にも、センターの具体的な研究成果が次々と掲載されるようになりました。本号の「イオンビーム照射による生物的效果の研究」などは、加速器を自由に使用できる環境にある原研ならではの成果だと思いますがいかがでしょうか。さて、実験装置もようやく整備され、いよいよこれから実験開始、と考えていたのですが、センターが発足してすでに3年になり、テーマの中間評価が迫っています。しかし、ここで焦ってみても突然何かを大発見するはずありません。日々の地道な研究活動が成果につながるものであると開き直って、今までどおり着実に歩んで行こうと思っています。

(A. I.)